

私立大学図書館協会 西地区部会 2012年度『館長懇話会』 要旨

日時：2012年6月15日（金）11：30～12：50

場所：金沢工業大学 1号館 1.110室

出席：59校 66名（会長校 立教大学を含む）

テーマ：「大学図書館における学習支援の可能性と限界（その2）」

—学生目線の図書館ピア・サポーターの活用を通して—

開会のことば：広島修道大学 図書館次長 若宮寿仁

開会の挨拶：広島修道大学 図書館長 今石正人

進行役は慣例により、部会長校の館長が担当することとなっているため、広島修道大学図書館 今石正人館長を選出し、配布資料「2012年度 館長懇話会テーマ設定について」に基づき、このテーマの趣旨説明の後、テーマに沿った内容の取り組みについて各大学から具体的な事例を発表し、随時質疑応答を行った。

内容：最初に広島修道大学から、最近の学生に対して思うことやテーマの趣旨に沿った支援の事例紹介があった。

最近の学生は、メールやフェイスブック、ツイッター等で文章を使っているようで、肝心のところで、想像力だとか文章を使って思考していく訓練がなされていない。

自分の想像力の中でイメージを膨らませていくことが出来なくなっている。

そこで、本の読み方、文章の書き方を学生達に教える必要性を感じる。

大学でできることは何なのか。とりあえず一人でも多くの学生に図書館に足を運ばせること。そして、本を読むことの面白さや、また本を読むことで新しい自分と新しい世界を発見させること。

次に取り組みの紹介。

2009年からスタート。大学院生を中心とした14名の学生スタッフが午後1時から6時まで交代でデスクに座り、学生目線で主として図書館利用に関してアドバイスをを行っている。

制度が発足して3年。サポーター学生は「パソコンの指導」、「図書館利用のマナー」、「本の探し方の指導」などについてのノウハウを、先輩から後輩に伝達している。

こうした活動は、利用する学生にとってのサービスであるが、サポーター学生にとっても、教えるということを通して、新しい自分を発見していくことにつながっている。

続いて、ピア・サポーターを導入している大学から、以下のような様々な意見、失敗談、成功例等が紹介された。

①ピア・サポーターの導入状況について

- ・ライブラリー・スタッフ（LS）制度を2001年から始めている。160名が登録。1回生、2回生から学部学生数に対して均等になるようにしている。時間給は800円。
- ・ピア・サポーターの制度は、2009年にラーニングアドバイザー（LA）として始まったばかりで大学院生を中心に活動している。時間給は800円。
- ・ライブラリー・アシスタント（LA）制度を設けている。時間給は750円。誰でもできるようなことではないので、事前にしっかり研修を行っている。
- ・ピア・サポーター制度には、人件費の削減と学生の成長を促がすという両方がある。人件費の削減を進めながら、サポーターにトレーニングや訓練をすることで学生との距離が近い人がレファレンス・カウンターやアドバイスを行うデスクにいて、そこに行ったら話が聞けるといふ、いわゆるラーニング・コモンズである。
- ・図書館が主導権を持った形での教育支援では、図書館学生アドバイザーとして、大学院生を雇用（謝金を出している）し、常に2名が図書館内のブースにいるという形で学生支援を行っている。
- ・ボランティア学生が、学生目線で書庫の案内とか、図書館をより良く使えるような改革を担っている。ボランティアの公募も学生が自分たちで行っている。
- ・大学院生（博士後期課程）が、将来研究者になるための指導力をつけるためにサポーターになっている。時間給は1500円で高校での非常勤勤務と同額にしている。
- ・ボランティアで学生図書委員が学生目線から図書の収集を行っている。

②活動内容、業務について

- ・配架が主な仕事であるが、学生からの質問にはピア・サポーターとしてアドバイスする。
- ・ピア・ラーニングとして、東北地方の震災の状況を学生に知らせたり、震災復興の支援をする活動も行っている。
- ・卒業生の寄付による寄付文庫があるが、寄付をした卒業生と連絡を取りながら、選書を行う。
- ・図書館内のブースで学生支援を行う。
- ・カウンター業務（レファレンスを含む）、学習相談、ブック・ハンティングの指導、選書、書架の整理。
- ・学生目線から図書館を改善するにはどうしたらいいのかを図書館に提言する。

③ピア・サポーターの目的やメリットについて

- ・大学の学生生活は、ボランティアではなかなか成り立たない。学生が学生を支援していく中で、学生自身の成長を促がして行く。
- ・人件費の削減と学生の成長を促がすという両方がある。
- ・人件費の削減に結びつけながら、学生との距離が近い人がデスクにいて、そこに行けば話しが聞ける。
- ・学生目線で、年齢も近い人から話しを聞けるのが学生にとっては好評である。
- ・年齢の近いサポーター学生から教えてもらうことが利用する学生にとって好評である。また教えることでサポーター学生自身が成長するメリットがある。

④今後の課題や問題点について

- ・問題点としては、授業との関係で学生を配置できないことがある。また、配架をするための学生を配置できないことも起こる。このような状況にならないよう、できる限り学生間で調整している。
- ・図書館を利用する学生は大いに利用しているが、他方で図書館に来ない学生で支援を必要としている学生をどうするかが問題である。大学全体の中で、学生支援、学習支援を考える必要がある。
- ・将来は大学院生に「図書館をいかに使うか」という図書館講習会の講師を担当させたり、レファレンス・カウンターに座らせたい。そして次には、ラーニング・コモンズ的なスペースを確保し、そこに配置したいと考えている。
- ・図書館のピア・サポーターの他に、学習支援センターや情報センターでもボランティア学生を活用している。しかし、部署によってボランティアであったりアルバイトであったりするし、アルバイトの場合も時給が700円であったり800円であったり差が出ているので、それを整理しようとしているところである。できれば、同じ学生がいくつもの部署に参加するのではなく、できるだけ多くの学生に参加して欲しいと考えている。
- ・ライブラリー・アドバイザーは図書館独自のサポートをしているが、各部署がいろいろなところで学生支援をしているので、各部署との連携を図ることが大事である。
- ・なかなかピアサポートのシステムができない状況である。
- ・利用者が少ない。その要因として、大学全体の連携をはかることが必要であるということと、1年間に1冊も本を借りない学生が全体の40%いる。つまり学生が図書館を必要としていないという現実がある。
- ・学生の支援に関わる問題は、一部局が突出してできる問題では決していない。ボランティアで学生図書委員が学生目線から図書の収集を行っているが、なかなか続かない現状がある。

- ・図書館がこういった支援ができるのかは、授業形態が大きく影響していると実感している。
- ・最近では学生が図書館に来ない。

⑤解決策、改善案その他について

- ・最近の授業形態（1話完結型）に問題があるのではないかと。学生が調べ物をする必要がない。この点をまず改善しなければならない。
結果として、授業（教員）とTAと図書館が連携して、学生がいろいろな調べものをして勉強し、レポートを書くとき、いかに内容が深まっていくかということを経験できるような仕組みを作ることが必要であると考えている。
- ・授業のあり方もずいぶん変わってきているが、図書館における学習支援というのは、教員集団を巻き込む形で行わないと、図書館だけではいくら頑張っても難しいと感じている。
- ・授業評価や授業改善の中で、パワー・ポイントや情報処理機器を使ったプレゼンテーション型の授業が、学生目線には「良い授業」と見えてしまう。1話完結型の授業にならざるを得ない現状がある。
最近のインターネット環境の充実により、わざわざ図書館に来なくても何でもできる状況が生まれつつある。
このような状況を全学的に捉えて学習支援を行わないと、図書館の予算の削減、図書館職員数の削減、あるいは外部委託の問題にまで発展してしまう。
- ・学生を図書館に来させるために、できるだけ「図書館に来て書籍を見ないと書けないようなレポートや実験の題目を選んで学生に課題を出してください。」と教授会等をお願いしている。
また、先生方が使う書籍を従来の配架とは別に先生の名前でコーナーを作りまとめて配架する工夫もしている。

⑥質問等

- Q. ピアサポートとか、図書館独自の指導は大学全体のコンセンサスを得て行っているのか。また、導入するにあたって、全学的な教育の問題であるという指摘等の問題は発生しないのか。
- A. 図書館で行っていることは、図書館に配分された予算の中で行っているもので問題はない。

今回の館長懇話会は、ピア・サポーターの問題から、最後には教学の問題まで発展した。

制約された短い時間の中で、多くの大学から事例報告や質疑応答が活発に行われた。館長懇話会の目的は、一定の結論を出すということではなく、他大学の事例等を参考にしながらそれぞれの図書館が独自の問題に取り組んでいくための情報交換にある。そういう意味で、今回の懇話会はこれからの図書館運営に生かしていただくために大変有意義なものであった。

以 上